ひかりのこ

10月園だより

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2026年9月25日

一人ひとりの歩みと、それぞれの芽

日に日に日が短くなって夕暮れの訪れが早まってまいりました。園庭では、夏の間きれいに咲いていた朝顔やひまわりが花を終え、「種ができてる！」「黒くて丸いね」と嬉しそうに種を摘み、小さな手のひらに大切そうに集める子どもたちの姿が見られます。

先日行われた乳児部といちご組の『ミニミニ運動会』では、温かい雰囲気の中で、小さな身体で一生懸命に走ったり表現したりと、一人ひとりの輝く笑顔と頑張る姿がたくさん見られました。見に来た幼児さんたちからも大きな拍手がわいていました。

『お買い物ごっこ』では、クラスのお友達と、楽しそうに品物を制作してお店の準備をしてきた子どもたち。当日は、「いらっしゃいませ」「これください」と笑顔でやり取りを楽しみながら買い物を経験しました。小さなかごを持ってやってきた乳児さんたちは、とってもかわいかったです。

日々成長していく子どもたちの姿を見ていると、「周りのお友達はもうあんなことができるのに…」「もっと我が子もできるようにならないと」と、つい他のお子さんと比べて焦ったり不安を感じたりすることもあるかもしれません。けれど、子どもたちの成長のスピードや、伸びゆく芽の形は一人ひとり異なります。早くできるようになることだけが全てではなく、自分のペースでじっくりと一歩ずつ歩んでいく姿もまた、とても尊く大切な成長です。私たち職員一同は、結果だけではなくそこに至るまでの過程や子どもたちそれぞれの歩むスピードを大切にしながら、そんな子どもたち一人ひとりの挑戦や小さな成長の歩みを、いつも温かく丁寧に見守り、共に喜んでいきたいと考えております。

そして、『生活発表会』に向けた準備が、いよいよこれから始まります。自分の気持ちや考えをのびのびと表現する楽しさを味わい、お友達と力を合わせて一つのものを作り上げる達成感に向かって、先生とみんなで一歩ずつ取り組みを進めていきます。

園長　小澤　暢子

チャプレン　上平　更

豊かな実りの季節が始まりました。園庭や美香保公園の木々も紅葉を帯びてくる頃合いです。子どもたちは、いちご狩りやじゃがいも掘りなどの体験を通して「日々の糧」が、空と大地の恵みであることを目の当たりにしました。また収穫の働きを給食を通して共に食べる喜びを幼稚園でも味わっています。

聖書には、この世界のはじまりから神様が天地の創造にはじまり、動植物すべての命を形造り、「よし」とされたと書かれいます。そして、人はそれらを保ち、その恵みの一部を分かち合って生きるようにと教えています。ひとつひとつの存在が成長し、助け合い、となりの人のために何かを担い、分け合うことで世界は循環します。

よく言っておく、あなたがたが地上で結ぶことは、天でも結ばれ、地上で解くことは、天でも解かれる

（マタイによる福音書18章18節）

独り占めしたり、他の収穫を奪い、この世界の恵みが巡り巡る流れを遮ろうとする出来事が世界に悲しい影を落とす中で、子どもたちが優しさやゆるし合いといった実りと恵みの種を蒔く人に育って欲しいと願います。

今日9月25日は「中秋の名月」です。『十五夜』とも呼ばれ、昔から美しい月を眺め、秋の実りに感謝してきました。中秋の名月は必ずしも満月とは限りません。

今年の満月は翌日の26日～27日にかけてです。親子で秋の夜空を見上げてきれいなお月様を楽しんでみてください。